

令和6年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	80	学校名	茨城県立鬼怒商業高等学校					課程	全日制		学校長名	青木 一芳				
教頭名	野澤 武久										事務(室)長名	深谷 充				
教職員数	教諭	28	養護教諭	1	常勤講師	6	非常勤講師	3	実習教諭 実習講師 実習助手	3	事務職員	3	技術職員等	5	計	52
生徒数	小学科			1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数		
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	商業に関する学科			46	84	/		/		/		/		46	84	4
	商業科			/		38	59	39	69	/		/		77	128	6
情報ビジネス科			/		14	26	12	27	/		/		26	53	2	

2 目指す学校像

<ul style="list-style-type: none"> ○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校 ○自ら考え、判断し、行動できる生徒を育てるとともに、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校 ○安心・安全な学校
--

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校 ○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校 ○安心・安全な学校
<p>「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○次の6項目を推進することにより、鬼怒商業高校生としての誇りをもちつつ、将来、地域のリーダーとして社会に貢献できる「人財」の育成に努める。 1 生徒の個人的資質の向上に努める。 2 商業に関する専門的知識の育成に努める。 3 保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。 4 生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくりに努める。 5 安心・安全な学校づくりに努める。 6 教育活動の一層の充実に向けて、業務の効率化を図る。
<p>「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○世の中の動きや商業に興味があり、商業に関する学習をしたい生徒 ○簿記・情報処理などの資格や商業の学びを生かして進学・就職したい生徒 ○目標をもち、本校での学習をとおして自分の可能性を伸ばそうとする生徒 ○学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学 習 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ○学習状況を各教科ごとに観点別に評価し、その実現状況を分析し評価することができている。 ○グループワークやペアワークを取り入れて互いに学び合う機会を設けた事により、積極的に学ぶ姿勢が見られる。また、タブレット等を活用し、個々の生徒の評価をすることができている。 ○ICT機器を活用し、基礎基本を重視した家庭学習をとおして「わかる」「できる」生徒が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材研究の効率化やICTの有効活用、「分かる授業」が展開できるよう、教科内にとどまらず教員間での研修会等の情報交換を図る。 ○自律的活動力や自他理解など、学び続けるための基盤となる「態度・価値観」を育成する。 ○携帯型キャンパス制に向け、オンラインでの授業展開や探求活動等において対応の準備を図る。
進 路 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ○求人票Web閲覧システムを構築し運用した。家庭での求人閲覧が可能となり、より充実した進路支援をすることができた。 ○履歴書のデジタル化を進め、業務の効率化を図った。 ○進路資料室の整備を進め、進路担当者とクラス担任が、各生徒の個性や適性を見極めながら、夢や希望に向かった支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路ガイダンス等の実施にあたり、各生徒の可能性を見出し、「やりたいこと」「できること」を広げる観点から、計画的に行う。 ○インターンシップの実施時期を検討する。 ○自己理解、社会理解、仕事理解を促進する。 ○教員が民間企業を理解し、必要とされる人材育成を行う。
生 徒 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ○規範意識の高い生徒の割合が増えており、生徒は落ち着いた生活を送っていることから、学校全体としての秩序が保たれている。 ○生徒指導における学年間の格差は少しずつ解消されてきており、学校統一の基準で支援しようという意識をもった教員の割合が増えた。前述より、足並みを揃えた指導が行えている。 ○「服装指導票」が有効に活用され、主体的に日頃の身だしなみを改善しようとする生徒がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○SNSの活用について再度注意喚起を行い、家庭の協力も得ながらネットモラルの必要性を根気強く指導していく。 ○学校周辺の巡回指導を強化し、校外の行動（交通マナー、公共マナー）について指導し、社会性のある生徒を育成する。 ○生徒の多様性を重視する校則の見直しを行い、寄り添った支援を行う。 ○自転車ルールを理解させ、事故を起こした際の過失責任を法的根拠をもって指導する。
特 別 活 動	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事全体とおし、ICTを活用し効率的・能率的な運営が行えた。体育的行事は、競技内容を球技中心へ再編成し、職員の負担軽減に努めた。文化的行事では、機知に富んだ企画、ステージ発表を実施し、主体性や責任感の育成に努めた。また、キッチンカーを依頼し、販売マネジメント力やマーケティングに関して学ばせた。 ○生徒会役員・各実行委員が中心に、生徒の力が生かされた行事運営ができた。また、行事の振り返り等を通して各々の生徒が生徒会活動に主体的に参加する姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事をとおし、主体性を高めマネジメント能力の向上育成に努める。 ○学校行事内容の精選等、日程および準備期間等を検討を図る。 ○各施設施設錠の徹底を図るために、部活動内の意思疎通および責任意識を高める必要がある。 ○部活動の精査、顧問編成の検討が必要である。
教育活動充実のための業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の労働時間を把握し、定時退勤を呼び掛け勤務時間の縮減に取り組んだ。ポイントを絞った業務の取り組みで退勤時刻の早期化にも成功している。 ○保護者からの要求に対して教員が個人で対応するのではなく、学校が組織として対応することができている。 ○年間の考査回数を減少させ、授業で行う評価の比重を上げることによって授業の工夫が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒に必要な資質・能力の育成をする観点を維持しながら教育内容の精選・重点化を図る。 ○業務の効率化の一層の推進のためのペーパーレス化を図る。 ○校内研修等の実施による教職員のICT活用のスキルアップを図る。

5 中期的目標

本校の目指す学校像を踏まえ、鬼怒商業高校生としての誇りを持ち、地域のリーダーとなって社会に貢献できる「人財」の育成に努め、活気ある校風の確立を目指す。
そのために、次の6項目を努力目標とする。

- 1 生徒の個人的資質の向上に努める。
- 2 商業に関する専門的知識の育成に努める。
- 3 保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。
- 4 生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくりに努める。
- 5 安心・安全な学校づくりに努める。
- 6 教育活動の一層の充実に向けて、業務の効率化を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 生徒の個人的資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣の確立及び豊かな情操とコミュニケーション能力の向上 ○授業、部活動、学校行事等、学校教育活動全体を通じて達成感、生徒の自己肯定感の向上 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習改善による、新時代に求められる資質・能力の向上
2 商業に関する専門的知識の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○教科内の連携による指導法の共有及び授業公開と意見交換による教員の授業改善 ○タブレット端末や電子黒板等、ICT機器を有効に活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現 ○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
3 保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○出前授業や学校Webページ等、教育活動の効果的な情報発信による募集人員の定数確保 ○キャリアパスポートの活用及びキャリア教育の充実による進路実現100% ○ボランティア活動や課題研究等、地域社会と連携した体験的学習及び課題解決学習の充実
4 生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○カリキュラム・マネジメントを推進し、計画的かつ組織的な教育活動の向上 ○PDCAサイクルを機能させ、学校評価と関連付けた教育内容の質の向上および教師の授業改善 「授業に対して肯定的に評価している生徒」の割合90%以上 ○組織マネジメントの推進、教職員間の活発な意見交換による学校運営及び業務の改善
5 安心・安全な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が安心して学習に取り組める環境づくり ○いじめ・体罰・災害等の防止及び迅速な対応 ○ホームルーム、授業、二者面談及び三者面談等、生徒一人一人と向き合う丁寧な対応
6 働き方改革の一層の充実に向けた業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ○各業務について、教育の目的達成に適切な方法となっているか不断の見直し ○校内における情報の共有化の推進 ○地域の人的・物的資源を活用した教育活動の推進